

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970300448		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	栃木グループホームそよ風		
所在地	栃木県栃木市沼和田町10-10		
自己評価作成日	平成26年12月28日	評価結果市町村受理日	平成27年3月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成27年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

栃木グループホームそよ風は栃木駅南口の静かな住宅街にあり、公園やスーパーに隣接しており散歩や買い物しやすい、生活するのにとても良い環境にあります。利用者と毎日家事を行い、隣接したデイサービスの行事に参加したり毎日活動的に過ごしています。家族会や懇談会、また面会時にも家族さまの意見などを発信できるようにし、家族と共に利用者が笑顔で楽しく穏やかに暮らしていけるホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は栃木駅に近い住宅街にある。近くには公園やスーパー・病院・歯科医院等がある生活しやすい環境に位置している。同一法人の「デイサービス・ショートステイ・訪問介護・居宅介護支援」・「サービス付き高齢者向け住宅」と隣接しており、様々な面において協力体制が整っている。デイサービスの行事に参加して地域との交流を楽しんでいる。家族会には職員も参加でき、様々な意見交換が得られるなど信頼関係が深まっている。また、全職員が利用者一人ひとりの人権尊重を大切にしながら、毎日楽しく・ゆったりと安心して過ごせるように努めているほか、職員同士の信頼関係の深さと気心が繋がっているところが良いケアに繋がっている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を作り朝礼時に理念を唱和し、確認してケアの統一の実践に努めている。	「お住まいの方の人権尊重」を基本方針として「楽しい・嬉しい・ほっとする」を事業所独自の理念として掲げ、唱和してケアの共有と実践に取り組んでいる。理念は玄関・事務室に掲示するほか、業務日誌に挟み日々再確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域のボランティアの方と交流を重ねたり、近隣の保育園児と交流したりしている。	自治会には法人全体として加入している。隣接のデイサービスに地域のボランティアや保育園児が来所の際に出向いて交流を図っている。法人の納涼祭等に地域の方の参加がある。	日々の近隣散歩などを通じた出会いを大切に、事業所に立ち寄ってもらうなど、地域の一員として日常的な交流に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常の買い物や散歩など通じて地域の方に認知症の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員から地域の情報を頂いている。利用者状況や活動などを報告し委員からのご意見をもらっている。	運営推進会議は家族・民生委員・地域包括支援センターの参加を得て開催している。会議では活動状況の報告や意見・情報を交換し、そこでの意見要望をサービスの向上に努めている。	地域との連携や地域に開かれたサービスにするために、自治会長の参加や議題に応じて消防署(消防団)・警察署等の参加を仰ぎ、災害訓練や様々な情報・活用法を見出し、更なるサービスの質の確保・充実に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の取り組みや利用者状況を地域包括支援センター職員を通じて情報を共有している。課題などのアドバイスを頂けるようにしている。	地域包括支援センターの出席する、運営推進会議で事業所の状況を報告し、グループホームとしての取り組みや活用法についての連絡や助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠やベットを壁から離す配慮など行って身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の人権尊重を基本とし、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関の施錠やベットを壁から離す配慮など行っている。	人権を尊重して、身体拘束をしないケアの実践に努めている。言葉のかけ方等、職員同士その都度話し、注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、研修会に参加し全職員にアンケート実施し、虐待の危険を早期に見つけ注意を払って防止に努めている。		

栃木グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外研修の参加機会を維持し、必要に応じた支援体制の整備に努めている。個々の必要性がある時は活用するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当初の契約に限らず制度改正に伴う報酬加算、料金改定の説明を分かりやすく明示し、納得同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会、懇談会を行い家族同士で意見交換を行ったりし、運営にも反映するようにしている。また日常の面会時にも意見や要望言いやすいように配慮している。	定期的に開催する家族会などで、家族の意見を受け止めている。さらに、日頃の面会時にさり気なく要望・意見などを聴き、運営に反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常、管理者へは意見交換できるようにし、月1回の全体会議では全職員発言の機会がある。ケアに関しては現場の職員の意見を大切にしている。	常日頃から職員はケアをしながら発言でき、また、会議の中でも管理者に意見や提案を言いやすくなっている。提案されたケアの仕方の「入浴時の安全な対応について」は、即実現するなど、意見反映につないでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、現場第一主義を念頭に置き職場の環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を定期的実施しており、スキルアップにつながっている。外部研修に於いても情報交換と時間の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会主催の研修に参加し、他事業所間との交流の機会確保している。情報の中で良いことを取り入れるようにしている。		

栃木グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人も見学も含めて来所してもらい、面談の機会を確保し、本人の気持ちを受け止める事を大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に話し合いの時間を確保し、家族の立場に立って話をしっかり受け止めていくようにする。家族と一緒に本人を支援していく姿勢で関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状何が必要かということ把握して、入居者本人のためのケアを第一に考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を心掛け、利用者本人ができることは行ってもらい、一緒に過ごすという関係を築いている。日頃より感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月本人の様子、行事などのお便りを発行し伝えている。本人の情報を共有し家族と一緒に支えている関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪時には、丁寧な対応を心掛け、馴染みの関係が途切れない様行事などお誘いしている。	馴染みの関係を大切に、近所の方や知人の訪問時には丁寧な声かけ対応をしている。さらに、行事等に誘い、関係が途切れない支援に努めている。理・美容等は毎月第1木曜日に決まった業者が来ており馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士コミュニケーションが取りやすいように席の配慮をし、全体の様子を把握し関わられるように声掛けしている。		

栃木グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活を把握するとともに、日常の表情や言葉・行動のパターンなど観察しながら訴えや要望が理解出来るよう努めている。	入居時、家族からの情報や日頃の生活状況の中で一人ひとりの思いや意向を把握している。職員は日常の声かけと何気ない利用者の言動の把握で、要望に添えるよう努めている。困難な場合は時間を置いて声かけ検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴をしっかりと聴取し、不十分なところは家族・関係機関により確認を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの中で出来る力、分かる力を把握し、その人らしい生活が出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状況や家族の意向を把握しカンファレンスやモニタリングによりみえた課題を主治医やケアマネ・職員の意見を参考にし介護計画を作成している。	本人・家族の意向は面会時等や電話で確認をしている。また、利用者担当制はあるが全職員が関わり、把握をして常時ケアの中や会議等で職員意見を聞き、介護計画作成に反映させている。見直しは6ヶ月であるが、身体状況変化に応じ見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子や気づいた事を記録に残し職員間で共有しながらケア実践・介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の状況の変化に応じ支援やサービス取り入れている。DSの特浴利用している。		

栃木グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要に応じてボランティアや地域の方々の力を借りているなどに参加して楽しむことができるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談のうえ、かかりつけの医を決めている。かかりつけの医に受診の時には、家族に本人の状況を伝え情報交換している。	多くの利用者が、入居前の医療機関を家族の協力により受診している。受診時は日頃の様子や血圧など、メモや口答で伝え適切な医療が受けられるよう支援している。協力医には職員の付添いで受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の様子を把握し状態変化に気づいたら、速やかに報告し指示を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、医療機関との連携を図り指示指導を受けたりして早期に退院出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて事業所として出来ることを家族等に話している。その都度職員間で話し合い共有化図っている。	看護師が居ないため看取りはしない方針としているが、ギリギリまでケアしたこともある。重度化した場合・食事が摂取できなくなった場合には、家族に説明相談して対応を検討している。急変時には家族への連絡と救急車で病院搬送という方針を共有化している。	家族・本人が安心して過ごせる場所として、終末のあり方についての相談ができるためにも、事業所としての支援体制や状況に応じた考えを取り入れられるよう意思確認書等の作成に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個別に緊急ファイルを作成し、応急処置の方法や連絡報告の手順を理解し訓練をして急変時事故発生時にそなえている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、職員全員に周知している。ショートステイやサービス付き高齢者向け住宅の協力体制を整えている。水や食料の備蓄・管理を行っている。	避難訓練は年2回、実施している。昨年度は夜間想定訓練を実施し、2階利用者の避難体制が課題になっている。隣接のショートステイやサービス付き高齢者向け住宅の協力体制が整っており、消火器は職員全員使用できるよう訓練している。	避難訓練の実施の方法を検討しているが、2階利用者や夜間の発生なども想定し、運営推進会議等を活用して地域住民に参加・協力を呼びかけることの検討に期待したい。

栃木グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの違いを尊重し、丁寧な声掛け誘導を行い、その人に合う対応を行っている。	利用者の人格や誇り・プライバシーを損なわないよう丁寧な声掛け誘導と、一人ひとりに応じた支援に努めている。個人記録は事務室に保管され職員は取り扱いに留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で少しでも出来ることはその人のペースで行えるように見守り達成出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、その都度利用者の意思を尊重して、自分のペースで過ごしている。活動への参加は促すが希望にそっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節を考慮し、自分で選んだり本人の好みに合わせている。整容声掛けを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に応じて役割分担を考え、食材カットや盛り付けなどを職員と一緒にしている。献立表見たりして食事を楽しむようにしている。	献立は法人の管理栄養士が作成し、朝・夕食は事業所で職員が調理している。昼食は隣接のデイサービスで調理されるが、利用者と職員と一緒に盛り付けを楽しみながら行っている。職員は会話をしながら楽しめる食事に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスやカロリーは栄養士が管理している。水分や食事摂取量をチェックして足りない時には補うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。見守り自らは行えない時は介助する。義歯不適合など口腔状態観察している。		

栃木グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人の排泄パターンを把握して声掛けトイレ誘導を行っている。日中は出来る限りトイレでの排泄を促して行っている。	職員は排泄チェック表により排泄パターンを把握し、さりげない声かけでのトイレ誘導に努めている。さらに、食事前には全体的に声をかけ、トイレでの排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常の水分摂取、乳酸菌摂取を促し移動を多くして身体を動かすように声掛けをし、便秘予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	健康状態を確認しながら本人の希望に応じて、毎日入浴していただいている。拒否のある利用者には、身体の清潔に関しての意欲を高めるような関わりをしている。	基本、利用者全員が毎日入浴できる。2浴槽あり、15時30分より個別に声をかけ、見守りしながら支援している。また、入浴拒否傾向な方にも清潔保持と気分転換が図れるよう、声かけの仕方などを工夫して、入浴に促す支援をしている。季節に応じ菖蒲湯やゆず湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動を十分に行い生活リズムを崩さないようにしている。夜の団欒で安心して眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理をしっかり行い服薬時の確認は誤薬のないよう再度チェックする。症状の変化は医師と家族に伝え指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人の得意分野を活かし役割づくりを考え持っている力を活かすことで自信を持って張り合い喜びが持てるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り散歩を行い、買い物にも行けるようにしている。季節にあった外出やデイサービスの行事にも参加している	近くの公園や住宅街の散歩に出かけたり、個別に買い物の付き添いを行っている。桜やアジサイの花見・道の駅へのドライブ等も実施し、利用者に新鮮な空気と季節感を味わうことが出来るよう支援している。	

栃木グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物同行し本人の力量に応じて日用品や買いたい物を購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人との会話の中で連絡が必要な時や家族から連絡来た時は電話の取次ぎ出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は掲示物などで季節感を出しソファーなどに座ると外が眺められるようにしている。	玄関・エレベータ前にはベンチが置かれている。リビングはゆったりとテレビを見ながら外を眺められる寛ぎの共用空間になっている。季節を感じる掲示物は利用者・職員の合作であり、不快な臭いもなく温かみのある安心して居心地良く過ごせる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールのベンチを置き座れるようにしてある。ソファーやダイニングのテーブルは自由に座って気の合った利用者とかつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが思い出のある使い慣れた物を置いて趣味の事が出来るような空間になっている。	ベッドは持ち込み又はレンタルで対応し、厚地の防災カーテンは利用者個々の好みの色を使用している。使い慣れた小さなテーブルや椅子が置かれ、位牌・テレビ等も持ち込まれている。季節の衣類の交換や清掃は家族・職員で行い、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険因子を配慮し自由に動けるようにしている。居室の入口には名前と顔写真を入れ自室が認識出来るようにしている。		